ビヨンドトゥモロー　年次報告書
2011－2012年

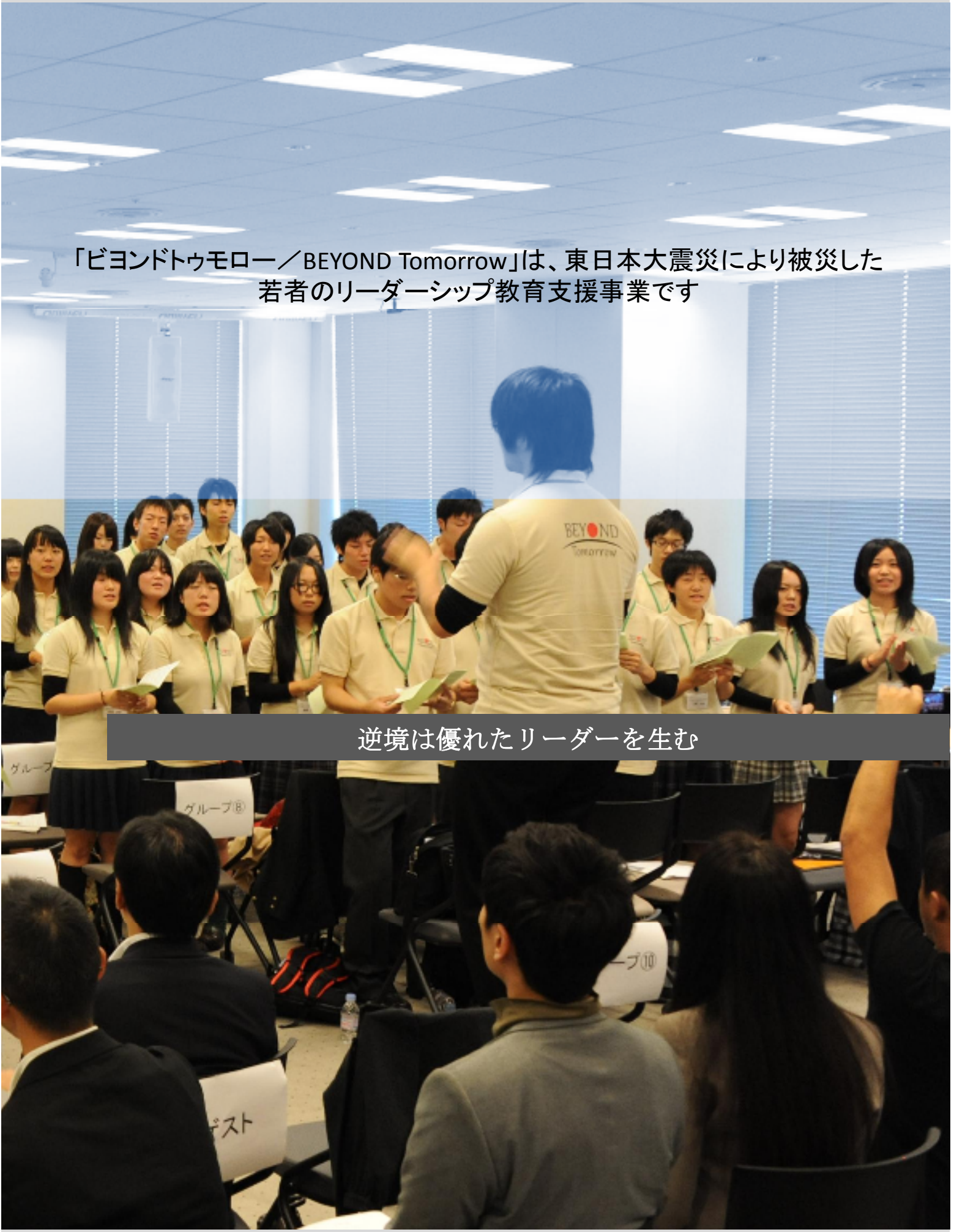
http://www.beyond-tomorrow.org/

BEYOND Tomorrow

目次

- 2011－2012年 ビヨンドトゥモローのあゆみ 03
- 特別メッセージ 05
- ビヨンドトゥモローの学生たち 07
- 奨学金プログラム 09
- リーダーシップ・プログラム 11
- プログラムハイライト／リーダーとの対話 13
- プログラムハイライト／世界への発信 15
- プログラムハイライト／芽生えた使命－東北から世界のために 17
- メディア掲載実績 19
- 組織体制 23
- ご支援・ご協力 25

明日を超えて、未来を築く


「ビヨンドトゥモロー／BEYOND Tomorrow」は、東日本大震災により被災した
若者のリーダーシップ教育支援事業です
逆境は優れたリーダーを生む

2011－2012年　ビヨンドトゥモローのあゆみ

2011年6月の設立以来、ビヨンドトゥモローは、東北被災地の学生を対象とした
リーダーシップ事業を様々な形で展開してきました。

2011年

6月

一般財団法人教育支援グローバル基金を設立、東北被災地の学生を対象としたリーダーシップ教育事業「ビヨンドトゥモロー」開始

9月

夏季ダボス会議ジュニアリーダーズプログラム開催（中国・大連）

10月

東北未来リーダーズサミット開催（東京）

11月

G1グローバル参加
大学奨学金プログラム募集開始

12月

「JENESYS FESTIVAL」参加（東京）
大学奨学金プログラム選考

2012年

1月

大学奨学金プログラム対象者発表

2月

G1サミット参加（青森県・八戸）
気仙沼プログラム開催（宮城県・気仙沼市）
高校留学プログラム募集開始

3月

震災チャリティーソング「HOPE」のバックコーラス出演
ビヨンドトゥモロー・リーダーシップ・アカデミー　スプリングプログラム開催（東京）
米国スプリングプログラム開催（米国マサチューセッツ州／ロードアイランド州）

4月

TOMODACHIサマー2012 ビヨンドトゥモロー　米国プログラム 募集開始

5月

ウイル・スミスとの交流イベント（東京）
TOMODACHIサマー2012 ビヨンドトゥモロー　米国プログラム 参加者発表

特別メッセージ

古川元久
衆議院議員
国家戦略担当大臣、内閣府特命担当大臣（経済財政政策、科学技術政策）、宇宙開発担当大臣

“真のリーダーというのは、自らの生き方を通じて人々を導いていくことができる人間である”

ビヨンドトゥモローの創設者の一人として、ビヨンドトゥモローが設立1年を迎えたことを非常に感慨深く思います。

ビヨンドトゥモローに参加する学生の皆さん一人一人が、大震災という本当につらい経験を乗り越えつつ、今日という日を生きていることと思います。同時にそうした毎日の中で、人の温かさや人と人とのつながりの大切さといった、人生にとって大きな価値あるものも見つけたのではないでしょうか。

ビヨンドトゥモローは、そうしたみなさんにこそリーダーにふさわしいと考えています。私はリーダーというのは、自らの生き方を通じて人々を導いていくことができる人だと思います。アップル社を築いたスティーブ・ジョブス氏が、まさに生き方そのもので多くの人を導いたように、皆さんには、あれだけのつらい震災を乗り越える体験があるからこそ、これからの日本を、そして世界の人々を率いていくリーダーになれると信じます。

ビヨンドトゥモローのプログラムを通じて、日本に、世界に、メッセージを発してください。そして皆さんが復興の先頭に立ち、日本を再生させていくリーダーになっていただくことを心から願っております。

ジョン・V・ルース
駐日米国大使

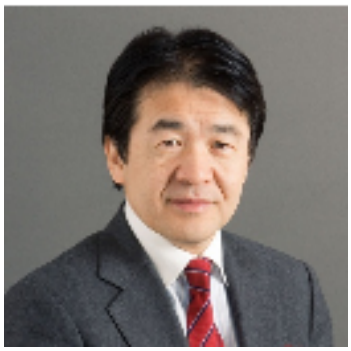
“全ての困難を乗り越えて国際的な次世代リーダーを志す東北の若者たちに対し、アメリカは惜しみない支援を送りたい”

東日本大震災は、日本人にかつてないほどの危機を突きつけました。しかし、このような自然災害は、大切な命や故郷を破壊することはできても、人々の心や精神までをも破壊することはできません。東北の人々は逆境をはね返す力を示し、被災した方々がこの災害から必ず復活すると私は確信しています。

私は、このような困難に直面しながらも、夢と希望を追い続ける若者たちを目の当たりにし、勇気づけられてきました。彼らは、東北が復興するというだけでなく、東北復興を牽引し日本の未来を築く若いリーダーが現れるという確信をももたらします。

2011年3月11日、アメリカ人は、日本人の静かな意志の強さや回復力に真の感銘を受けました。全ての困難を乗り越えて国際的な次世代リーダーを志す東北の若者たちに対し、アメリカは惜しみない支援を送りたいと思います。

2011年3月11日以降の経験によって培われた世界観や原動力で、ビヨンドトゥモローの学生は日本の次世代のリーダーとなるエネルギーや創造性にあふれています。それは彼らのもつ責任であり、そして機会でもあります。私たちは、あらゆる可能な手段で彼らを支援していきたいと考えています。



竹中平蔵
慶應義塾大学グローバルセキュリティ
研究所　所長
総合政策学部　教授

“ビヨンドトゥモローのプログラムに参加した東北地方の若い方々が、東北、日本、そして世界の未来を牽引する力となることを期待します”

東日本大震災という困難を乗り越え、広い世界で活躍することを目指すリーダー候補を被災地から輩出することを目的とするビヨンドトゥモローは、まさに今の社会が必要としている取り組みであると考えます。

私は、ビヨンドトゥモローのプログラムを通して、被災地の学生と対話する機会に恵まれました。震災によってもたらされた彼らの悲しみと衝撃は、想像を上回るもので、そのような困難に直面しても、夢と希望を失うことなく前に進もうとする姿に心を打たれると共に、若い世代が自らの声で生の体験を発信していくことの重要性を痛感しました。

東日本大震災がもたらした悲劇が繰り返されることのないよう、彼らはビヨンドトゥモローのプログラムにおいて提言と発信を行っています。これはまさに社会が求める実践的なリーダーシップの形であると考えます。

政治・経済・法律など多領域にまたがって複雑に絡み合った世界の諸問題を解決するには、強靭なリーダーシップが必要であることは言うまでもありません。想像を絶する困難を体験した被災地の若い世代が、逆境を乗り越えて広い舞台での活躍を目指すことは、そのような強い意志のあるリーダーシップを生むと信じます。

そのようなリーダー育成を目指すビヨンドトゥモローのプログラムに参加した東北地方の若い方々が、東北、日本、そして世界の未来を牽引する力となることを期待します。

ロバート・フェルドマン
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社
マネージングディレクター

“津波の犠牲になった方々が今、天国からあなたたちを見て、大事な仕事を実現してほしいと祈っているはずです”

ビヨンドトゥモローが設立されてから1年の間に、東北被災地の学生が集い、東北の将来や日本の将来、世界の将来を考えて行動するためのプラットフォームを構築したことには、はかりしれない意味があると思います。

人材なくして東北復興もなければ、国の未来もありません。人を創るということは、新しい人と出会い、異なる価値観とぶつかり、根性を持って新たな挑戦に取り組むことです。ビヨンドトゥモローは、そのようなチャレンジを提供する場として、これまでにはなかった学びの場を生み出しました。それは、東北被災地の学生の切なる願いと悲痛な想いの賜物であり、社会はそれを真摯に受け止める義務があります。

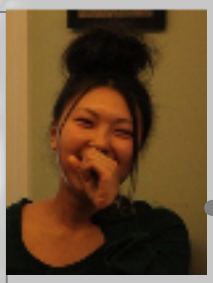
若年で命を落とした人以上のことを我々は何もすることできません。我々は身を挺して、彼らが進んでやろうとしていた大きな仕事をさらに進めるべきです。津波の犠牲になった方々が今、天国からあなたたちを見て、大事な仕事を実現してほしいと祈っているはずです。

ビヨンドトゥモローに集う皆さんが手をつなぎ、生き残った者として大きな仕事を実現されるために、私もできる限りの協力をしていきたいと思います。

ビヨンドトゥモローの学生たち

ビヨンドトゥモローは、東日本大震災により多くを失うという逆境をバネに、広い世界・社会で活躍する志をもつ、未来のリーダー候補の学生を応援してきました。

【宮古】
船越絵雅（ふなこし・えみ）
岩手県立宮古高等学校を卒業、早稲田大学文化構想学部に進学
震災で祖母や親戚を亡くす。震災後、自らにできることを考えた際に、「知る」ことの重要性を感じ、地元のラジオ局の災害FMの開設をボランティアスタッフとして手伝った。その体験から、情報を提供することで多くの人が様々な問題について考え、実践に移していく機会を作ることのできる職業としてアナウンサーを志す。



【釜石】
小川彩加（おがわ・あやか）
岩手県立大槌高等学校卒業、Leelanau School(米国・ミシガン州)へ留学
津波によって両親、祖父母、姉を亡くし、現在、親戚と仮設住宅に暮らす。家族を失いながらも自分だけが助かったからには、悔いのない人生を送りたいと、かねてから関心のあった海外留学を決意。震災後、自らに与えられた多くの機会への感謝から、将来は、自らも人に希望を与えられる人になりたいと、世界的に活躍できるファッションデザイナーを目指し、米国に留学。

【南三陸】
阿部菜穂（あべ・なほ）
宮城県気仙沼高等学校を卒業後、帝京平成大学健康メディカル学部に進学
宮城県南三陸町で被災。母と一度は高台に避難したものの津波にのまれ、自身は奇跡的に一命をとりとめたものの、最愛の母を亡くす。震災を経て、救命士である父の影響を受けて志した職業である臨床工学技士の資格を取得できる大学に進学を決意。大学生活では、途上国の貧困や飢餓問題の解決にも貢献すべくNPOの活動などにも参加したい。

【仙台】
日下マリア（くさか・まりあ）
仙台育英学園高等学校から、 Davidson High School（オーストラリア・ニューサウスウェールズ州）へ1年間留学
津波によって父を亡くす。震災直後の夏、東日本大地震・津波遺児の高校生代表として米国ニューヨーク市を訪れ、NY9.11同時多発テロ遺児、ハリケーンカトリーナ災害遺児らとともに、東北の津波で親を亡くした遺児の現状やこれからの心のケアの必要性を世界に訴えた経験を持つ。自分以上にまだまだ大変な人がいるのだから、その人の分まで頑張りたいと、オーストラリアへの留学を実現。

宮古
釜石
大船渡
陸前高田
気仙沼
南三陸
石巻
仙台
相馬
郡山

【大船渡】
千葉真英（ちば・まさひで）
岩手県立大船渡高等学校を卒業、宇都宮大学工学部に進学
大船渡にて被災。津波によって母親と祖母を亡くし、家も流された。多くの命が犠牲になった中で自分は助かったという経験から、将来は地元の復興と、自然災害に備えた街づくりに貢献することが生き残った者の使命であると考えている。三陸沿岸地域の災害に強い街づくりに参加し、復興に関する事業を行う会社を立ち上げることが夢。

【陸前高田】
菊地将大（きくち・まさひろ）
岩手県立高田高等学校を卒業、筑波大学社会・国際学群に進学
陸前高田市で被災し、両親を亡くす。高校では生徒会長としてリーダーシップを発揮、震災後には、第14代高校生平和大使としてスイスの国連欧州本部を訪問した。震災で世界より多くの支援が寄せられたことから国際連帯の重要性を感じ、世界に防災の必要性を発信していくことが日本の今後の使命であると考えている。将来の夢は、陸前高田市の市長となり、被災地の復興を先導する立場になること。

【気仙沼】
加藤英介（かとう・えいすけ）
東陵高等学校を卒業、慶應義塾大学環境情報学部に進学
気仙沼で被災し、家を失くす。震災半年後の9月には、東北被災学生代表として、夏季ダボス会議に参加し、東北の状況について世界のリーダーたちを前に発信。将来は、自らが被災者であるという立場を活かし、自分と同じような境遇の人たちの経済状況を十分に把握した上で町づくりをしていきたいと、地元気仙沼の復興に携わりたいと考えている。

【気仙沼】
藤田真平（ふじた・しんぺい）
神奈川県立岸根高等学校を卒業、神奈川大学法学部に進学
宮城県気仙沼で被災し、家を失ったため、神奈川県に避難、家族と離れて神奈川県で高校に通った。13年間続けてきた水泳が心の支え。震災後9月には、山口県で行われた国民体育大会で宮城県代表として出場し自己新記録で12 位。大学進学後は全国大会に出場し、日本一の選手になるという夢を持っている。将来は、復興のために地元・気仙沼に帰り、若者が出て行くのを減らせるような会社を同じ志を持つ仲間と共に立ち上げることが夢。

【石巻】
菅原彩加（すがわら・さやか）
仙台育英学園高等学校から、Leysin American School（スイス・ヴォー州）へ留学
石巻市にて被災。津波によって母、祖母、曾祖母を失う。震災から6ヶ月後、中国にて開催された夏季ダボス会議に参加し、世界のリーダーに向けて自身の経験を伝えた。将来、自分が体験したような辛い思いをしている子供のために働くという夢のために、語学習得を目指してスイスの高校へ留学。震災後に日本に支援をしてくれた国々への恩返しとして、国際ボランティアにも取り組みたいと考えている。

【相馬】
目黒妃呂美（めぐろ・ひろみ）
福島県立相馬東高等学校を卒業、東北公益文科大学公益学部に進学
背後にせまりくる津波から逃れるために走っている最中に、通りがかりの人に車に乗せてもらうことができたために危機一髪で命拾いをしたという経験をもつ。震災で家を失い、父は失職。音楽大学に進学するという夢をあきらめ、就職を考えたが、将来は街づくり、地域活性化について学び、東北復興を担う人材になるという新しい目標の実現のためにスカラーシップを得て進学を決意。

【郡山】
増子光希（ましこ・みき）
福島県立郡山高等学校から、 Gym.Neufeld（スイス・チューリヒ州）へ1年間留学予定
福島県郡山市で震災を体験。その後も放射能問題による福島に対する風評被害や差別を実際に体験し、全国の人々に対して福島の状況を発信していきたいと考えている。今後、東北が復興するためには、多くの人が東北を理解し、支えてくれることが重要であると考え、9月からスイスに留学予定。留学先では、高校生外交官として、福島の現状を積極的に伝えたい。将来は国連職員になり、世界の開発問題の解決に貢献することが夢。

奨学金プログラム

ビヨンドトゥモローは、東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じ、進学のための奨学金（返済不要）を給付しています。

大学スカラーシップ・プログラム

東日本大震災により被災しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志し、国内外で進学する新大学生に奨学金を支給。2012年対象者20名（2012年5月末日現在）。

- 2012年対象者
  東日本大震災により被災し、岩手・宮城・福島のいずれかの県に居住していた学生であり（震災後、他の都道府県に転校した生徒も対象）、2012年3月までに高等学校またはそれに準ずる学校を卒業し、2012年4月～2013年3月に新たに大学・短大・各種学校に進学予定の者（震災による被災度合いがより高い者は優先的に配慮）。

- 選考
  - 1次選考：書類審査（課題作文及び学校長の推薦状）
  - 2次選考：面接審査（グループディスカッション）

- ガバナンス／体制
  奨学金委員会：本プログラムの選考は、奨学金委員会によって監督されました。
  - デビッド・サターホワイト　フルブライト・ジャパン（日米教育委員会）事務局長
  - 渋澤健　　シブサワ・アンド・カンパニー株式会社　代表取締役CEO

  選考委員会：最終選考は、下記の選考委員により開催されました。
  - 岡島悦子　　株式会社プロノバ　代表取締役社長（ビヨンドトゥモロー発起人）
  - 草原克豪　　拓殖大学名誉教授
  - 高田祐三　　AFS日本協会理事・事務局長
  - 松古樹美　　野村ホールディングス　コーポレート・シティズンシップ推進室長　マネージングディレクター、ニューヨーク州弁護士（ビヨンドトゥモロー発起人）

【2012年度大学スカラーシップ・プログラム参加者】

阿部菜穂
帝京平成大学健康メディカル学部1年（宮城県気仙沼高等学校卒業）

今井友里恵　（小林正忠特別奨学生）
慶應義塾大学法学部1年（岩手県立盛岡第一高等学校卒業）

遠藤見倫
石巻専修大学経営学部1年（宮城県石巻北高等学校卒業）

小野寺栄
早稲田大学商学部1年（仙台育英学園高等学校卒業）

加藤英介　（小林正忠特別奨学生）
慶應義塾大学環境情報学部1年（東陵高等学校卒業）

上澤知洋　（住友化学特別奨学生）
東北大学農学部1年（岩手県立盛岡第一高等学校卒業）

菊池翔太　（三菱重工業特別奨学生）
東北学院大学法学部1年（岩手県立大船渡高等学校卒業）

菊地将大
筑波大学社会・国際学群1年（岩手県立高田高等学校卒業）

倉本千邑　（三菱重工業特別奨学生）
明治薬科大学薬学部1年（岩手県立盛岡第一高等学校卒業）

西城国琳
拓殖大学国際学部1年（宮城県気仙沼高等学校卒業）

佐々木瞳
米国Foothill College（宮城県気仙沼高等学校卒業）

佐藤滉　（三菱重工業特別奨学生）
高崎経済大学地域政策学部1年（岩手県立盛岡第一高等学校卒業）

菅野翼
宇都宮大学国際学部1年（福島工業高等学校卒業）

千葉真英
宇都宮大学工学部1年（岩手県立大船渡高等学校卒業）

福田順美　（三菱重工業特別奨学生）
宮城大学看護学部1年（岩手県立高田高等学校卒業）

藤田真平
神奈川大学法学部1年（神奈川県立岸根高等学校卒業）

船越絵雅
早稲田大学文化構想学部1年（岩手県立宮古高等学校卒業）

マンスフィールドデビッド宥雅
早稲田大学法学部1年（宮城県仙台第一高等学校卒業）

目黒妃呂美　（三菱重工業特別奨学生）
東北公益文科大学公益学部1年（福島県立相馬東高等学校卒業）

山内留衣
フィジー国立大学（仙台白百合学園高等学校卒業）

高校留学プログラム

東日本大震災を乗り越えて、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志す高校在学者及び高校卒業者に、海外のボーディングスクール（全寮制学校）への留学機会を提供。2012年対象者5名（2012年5月末日現在）。

- 2012年対象者
  東日本大震災（2011年3月11日）の時点で、岩手・宮城・福島のいずれかの県に居住していた者（震災後、他の都道府県に転校した生徒も対象となります）で、2012年9月の段階で、高等学校またはそれに準ずる学校に在籍、または卒業してから1年以上が経過していない者。東日本大震災を乗り越えて、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志す者（震災による被災度合いがより高い者は優先的に配慮）。

- 派遣先国
  - アメリカ（ミシガン州　ルルノー・スクール）
  - イギリス（ウスターシャー州　セント・マイケルズ・カレッジ）
  - スイス（ヴォー州　レザン・アメリカン・スクール、ヴォー州　セント・ジョージズ・スクール）

- 選考
  - 1次選考：書類審査
  - 2次選考：電話面接
  - 3次選考：面接審査

- ガバナンス／体制
  選考委員会：最終選考は、下記の選考委員により開催されました。
  - 岩瀬大輔　　ライフネット生命保険代表取締役副社長
  - 船橋力　　株式会社 ウィル・シード　代表取締役社長
  - 小林りん　　公益財団法人 インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢設立準備財団　代表理事
  - 西田浩子　　公益財団法人　かめのり財団　事務局長

【高校留学プログラム参加者】

遠藤亮子
Saint Michael's college（イギリス・ウスターシャー州）／（東稜高等学校）

小川彩加
Leelanau School （米国・ミシガン州）／（岩手県立大槌高等学校卒業）

日下マリア*
Davidson High School（オーストラリア・ニューサウスウェールズ州）／（仙台育英学園高等学校）

菅原彩加 （ロバート・アラン・フェルドマン特別奨学生）
Leysin American School（スイス・ヴォー州）／（仙台育英学園高等学校）

高橋奈々美*
lycée Benjamin Franklin（フランス・ブルターニュ州）／（宮城県立宮城第一高等学校）

増子光希*
Gym.Neufeld（スイス・チューリヒ州）／（福島県立郡山高等学校）

*ジュニア・スカラーシップ・プログラム
ビヨンドトゥモロー・ボーディングスクール・プログラムの指定校以外の海外の高校へ半年以上留学する者を対象とした奨学金プログラム

リーダーシップ・プログラム

ビヨンドトゥモローは、東北被災地からリーダーとしての活躍を志す学生たちの視野を広げ、人間的成長を促す各種のリーダーシップ教育プログラムを開催してきました。その領域は、世界・日本・地域と広がり、広い視野と強い共感力をもって社会変革の原動力となる人材の輩出を目的としています。

グローバルな視座

- **夏季ダボス会議ジュニア・リーダーズ・プログラム（2011年9月　中国・大連）**
  東日本大震災により被災した高校生・大学生7名による、世界のリーダーとの対話・スピーチ・メディアへの発信。

- **米国スプリングプログラム（2012年3月　米国・マサチューセッツ州／ロードアイランド州）**
  東日本大震災の震災遺児高校生3名が、米国を訪問し、マサチューセッツ州ボストンや、ロードアイランド州プロビデンスを訪れ、東北被災地の状況について発信。

日本とむきあう

- **東北未来リーダーズサミット（2011年10月・東京）**
  被災地の高校生70名が東京に集結し、各界で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、東北の復興のあり方について提言をまとめ、古川元久国家戦略担当大臣のもとへ届けた。

- **リーダーシップ・アカデミー・スプリングプログラム（2012年3月・東京）**
  震災を乗り越え、新たに進学する学生25名が、震災から1年を経た今、未来に向かって果たすべき役割をリーダーとの対話やディスカッションを通して具体化し、映像やウェブサイトで広く発信。

地域をみつめる

- **気仙沼プログラム（2012年2月・宮城県気仙沼市）**
  米国人学生11名および気仙沼の学生7名が、気仙沼の被災地を共に訪れ、世界に伝えたい被災地の状況を文章・映像で発信。

COMMITTED TO
IMPROVING THE STATE
OF THE WORLD

プログラムハイライト　ーリーダーとの対話—

被災地の学生たちは、未来に向けての自らの使命・役割を考える上で、多様な領域で活躍するリーダーの方々と対話し、思考を深めました。リーダーシップとは、机上の学びにとどまらず、実際に世界に出て、アクションを起こすことであることを学ぶ機会になりました。

「今後日本の復興に向けて、米国として何をすることが最も重要か。その答えは、ここにいる東北の素晴らしい若者や、東北地方の若者全てに“希望”を与えることです。なぜなら、東北、そして日本全国の人々の夢や希望は、今日ここにいる東北地方から来た学生たちにかかっているからです」

ジョン・V・ルース（駐日米国大使）

（どのように日常の困難の中で、大きな志を抱き続けるのかという質問に対して）
「『夢みながら耕す人になれ』という言葉がある。大きな目的を忘れずに、毎日の積み重ねを続けることが大切」

竹中平蔵（慶應義塾大学　グローバルセキュリティ研究所所長　総合政策学部教授）

「学生時代は答えがあるものがあり、また、その答えを知っている人がいる。でも社会人になって仕事をしてみないと分からないことがある。人生において、できないことの方が多い。全部なんてできないんだから、サボってやり残したことも財産。ただし英語は勉強しておけよ」

糸井重里（コピーライター）

「何か決断するとき、多角的に考える。色々な人から話を聞く。でも最後に決断するのは自分自身。人はどんなに幸せに見えても、必ず何かの問題を抱えている。だからむやみに人を羨ましがったり悲観することに意味はない」

橋本大二郎（早稲田大学大学院客員教授/
慶應義塾大学特別招聘教授/ 前高知県知事）

「無邪気であること、自分自身の心の中にある思い、今感じていることを大事にすること。そういう人が、ゲームの流れを変え、チームの空気を変えていきます。そして、義務や過去よりも、未来や夢を語ることが人を惹きつけ、チームを動かします」

為末大（ハードル選手）

「自分の経験や体験に基づいて考えるようにして頂きたいと思います。常に、自分の言葉で語る、そういう習慣を持つことで、相手に対する説得力が増します。また、意見や提言にも深み、強みや厚さが出てくるということだと考えています」

高成田享（特定非営利活動法人東日本大震災
こども未来基金理事長）

プログラムハイライト　ー世界への発信—

ビヨンドトゥモローは、被災地の学生たちが世界に東北の現状を発信することの重要性を鑑み、グローバルな環境での発信の場を構築してきました。

菅原彩加

（仙台育英学園高等学校から、Leysin American School（スイス・ヴォー州）へ留学）

3月11日は、中学校の卒業式でした。10年間共に過ごした仲間とのすばらしい旅立ちの日、一生の思い出に残る良い日になるとばかり思っていました。

“助けるか、逃げるか。私は自分の命を選びました”

家に帰るとすぐに地震が起きました。今までに感じたことのないほど大きな揺れでした。地震が発生して、停電になってしまったため、テレビから情報を得ることが出来ず、携帯で津波がくるという情報を得て、逃げようとした時にはすでに遅く、地鳴りのような音と共に一瞬にして津波は家と私の家族を飲みこみました。がれきと黒い水に流され、「もう死ぬんだ」「高校の制服を着たかったな」と、たくさんのことが頭の中を駆け巡りました。

しばらく流されてがれきをかきわけて出ていくと、がれきの下から母が私の名前を呼ぶ声が聞こえました。がれきをよけると、くぎと木がささり、足は折れ、変わり果てた母の姿がありました。右足がはさまって抜けず、一生懸命がれきをよけようと頑張りましたが、私一人ではどうにもならないほどの重さ、大きさでした。母のことを助けたいけれど、このままここにいたらまた流されて死んでしまう。助けるか、逃げるか。私は自分の命を選びました。今思い出しても涙の止まらない選択です。最後その場を離れる時、母に何度も「ありがとう」「大好きだよ」と伝えました。「行かないで」という母を置いてきたことは本当につらかったし、もっともっと伝えたいこともたくさんあったし、これ以上つらいことはもう一生ないのではないかなと思います。その後私は泳いで小学校へと渡り一夜を 明かしました。

この後も私が体験したことはもっともっとたくさんあります。辛くて死のうかと思った日もありました。なんでこんなに辛いんだろうと思った日もあるし、家族を思って泣いた日も数え切れないほどありました。今回の震災で私ははかりしれないほど多くを失いました。

しかし、この震災によって得られたものもたくさんあります。そしてそれはこれから、自分の気持ちや行動次第でいくらでも増やしていけると私は思います。他の人からみれば私はかわいそうな高校生かもしれませんが、私はそうは思いません。私には支えてくれるおじいさんやおばさんがいます。辛い時に助けてくれる友達がいます。このような経験をしたから得られたチャンスがあります。そして、どんなことも頑張れる自信もあります。また、辛い人の気持ちを分かってあげることもできます。

“辛くて死のうかと思った日もありました”

“だから私は将来、私と同じつらい思いをしている子どもたちを助けられる仕事をしたい”

だから私は将来、私と同じつらい思いをしている子どもたちを助けられる仕事をしたいと思っています。また日本に支援をしてくれた国への恩返しとして、国際ボランティアにも取り組んでみたいです。

この先、辛いこともたくさんあると思いますが、私にしかできないこと、私だからできることをたくさんみつけて誰かの役にたち、失ったものと同じくらいのものを、人生を通して得ていきたいと思います。

ビヨンドトゥモローのプログラムに参加して以来、一緒に前に向かって歩ける同じ境遇にいる仲間と出会いました。励ましてくれるリーダーたちにも出会いました。たくさんの声に背中を押されて、私は今月からスイスに留学する予定です。辛い体験があったからこそこんな自分になれたと思える日が来るように、しっかりと生きて行きたいと思います。

千葉真英（岩手県立大船渡高等学校を卒業、宇都宮大学工学部に進学）

震災の前日のことを思えば、おかしな日でした。校庭の上空はまだ午後4時だというのに深い赤に染まり、そこには夥しい数の鳥が群がっていたのです。何かがおかしいことに気付いていれば。今でもそう思います。

2011年3月11日14時46分18秒。地震が発生した時、部活動中でした。未だ体験したことのない揺れに、多くの生徒たちが興奮している様子でした。表情には笑いすら浮かんでいました。これからどれだけの悲しみを味わうことになるかも知らず、心のどこかで期待していた非日常の訪れを私たちは密かに愉悦してすらいたのです。

海から50mの近さにある自宅と連絡はとれませんでしたが、裏山に避難しているはずだと大して心配もせず、学校で一夜を明かし、翌日の朝、三陸鉄道のトンネルを通って、1時間程の道のりを歩いて帰りました。トンネルを抜けた時、建物のない光景が広がりました。それは、それまでに得た情報で覚悟はしていた光景でしたが、その世界には、覚悟していなかった事実がありました。

それは、この世界から、母と祖母が消えていたことでした。

母と祖母が亡くなったと聞かされた時、まったく意味が分からなくなりましたが、家の裏の山へ連れて行かれ、車の中に母の脚を見た瞬間、今朝の母の顔や、これまでの毎日を思い出し、どんなに、どんなに辛かったかと思うと、叫ばずにいられませんでした。私の手が母の顔を包んでも、その温もりも冷えていくばかりで、温かさが返ってくることは、決してありませんでした。

火葬はたまらなく嫌でした。火葬しなくてはならないが、して欲しくないジレンマに悩み、母の肉体が火の中に消えていくのは本当に耐えられませんでした。

それからの毎日に意味が見出せず、「大丈夫か」と聞かれても、何が大丈夫なのか分からないままに笑顔を作りました。毎日、夢中で瓦礫を片付けました。母が津波にのまれたのは、私や弟たちの学習道具を二階に運んでいたからだと聞き、毎晩寝られず自分を責めました。あの朝何かが変わっていればといつも思いました。

夏季ダボス会議ジュニアリーダーズプログラム・四川大震災孤児との共同記者会見（2011年9月）
自然災害で困難な状況を体験した同世代の者同士が日中の国境を越えて手をとりあい、世界に向けて、自然災害のリスクや、世界が関心を持ち続けることの重要性を訴えました。

小川彩加（岩手県立大槌高等学校卒業、Leelanau School（米国・ミシガン州）へ進学）

震災で、私は家族全員を失いました。両親、姉、祖父母の全員がいなくなり、17年間暮らした家も失いました。これ以上失うものはないというくらい私は全てを失い、一人ぼっちになりました。

3月11日、地震の直後、私は母と祖母と3人で高台に避難しました。しかし、黒い壁のような波は、私たちのすぐ背後に迫っていました。その時、母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後にきいた母の言葉となりました。

走って坂を登り、山を登り、私は助かりました。でも、どこを探しても母と祖母の姿はありませんでした。翌日の朝、がれきの上を、母と祖母の名前を呼びながら探しました。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。

“たった一瞬にして、あまりにも多くのものを失い、なぜ自分の命だけ助かったのかと、心も魂もどこかにいってしまった”

遺体安置所で、姉と対面した時、姉の頬を触り、何度もありがとうと言いました。私の涙で姉の顔は濡れました。姉から離れたくありませんでしたが、火葬して、姉は灰になってしまいました。

そして、行方不明の家族を探す日々が続きました。亡くなった人の写真がおさめられているファイルを一枚一枚めくって探しました。1ページ1ページめくる度に衝撃が走りました。まだ幼い女の子、手足が曲がったままの遺体、たくさんの遺体を見ました。

もし次のページが母だったら。父だったら。

早く見つけてあげたいけれど、家族が全員いなくなり一人ぼっちになってしまったという事実を受け入れることができず、ページをめくることに途方もない恐怖を感じました。

その後、祖母と父はみつかりましたが、母と祖父は今も行方不明です。

たった一瞬にして、あまりにも多くのものを失い、なぜ自分の命だけ助かったのかと、心も魂もどこかにいってしまった気持ちでした。しかし、その後、多くの素晴らしい出会いがあり、今、私はここに立つことができています。震災直後は、ぼんやりと高校を卒業したらどこかで働くのだろうと思っていました。けれど、震災の後にたくさんの人々に出会い、世界が広がり、人と人とのつながりの素晴らしさを知り、そしてその過程で芽生えた、アメリカへ留学するという夢は早くも今月、実現することになりました。

人は、助け合い、支えあい、思いやりながら生きているのだと改めて実感しました。私がたくさんの方々からきっかけやチャンスをいただいたように、私もほかの人にきっかけやチャンスを与える側の人間になりたいと思っています。将来は何かの分野で世界で活躍し、世界に貢献できる人間になりたいと思います。今月から、アメリカに留学し、ファッションデザイナーという新たな夢を目指して歩き始めます。

姉は、いつも弱い立場にある人のために行動する人でした。父からは、思いやりをもって人と接することを学びました。母からは、強く生きることを教わりました。家族が私に残してくれた想いや意志を胸に、与えられたチャンスを大切に、自分の可能性を信じ、そして何よりも自分の気持ちに素直に、私らしく生きていきたいと思っています。

“私がたくさんの方々からきっかけやチャンスをいただいたように、私もほかの人にきっかけやチャンスを与える側の人間になりたい”

ブラウン大学での震災発信プログラム「Orphaned by the Wave」（2011年3月）
米国・ブラウン大学の日本文化研究会（JCA）によって、震災から1年という節目に企画されたプログラムで、被災学生3名が東日本大震災がもたらした影響についてスピーチを行い、震災の風化防止を訴えました。

ボストン・ロングウッド・シンフォニー・オーケストラ公演“HOPE for Tohoku”でのスピーチ（2011年3月）
ボストン東北緊急支援ファンドの招聘により、被災学生2名が英語でスピーチを行い、震災後、東北に寄せられた米国からの支援に謝辞を述べました。

それでも自ら命を絶たずに生きてきたのは、母や祖母、そして家族のために少しでも故郷の復興に尽力したいと思ったからでした。そしてそれこそが生き残った私の使命だと考えるようになりました。

私の住む大船渡市は水産物を軸に発展してきた街なので、魚や加工品を運ぶ交通網の整備を行う必要があると考えています。そこでただ元の大船渡市に戻すのではなく、災害に強く、住みやすい街にできるよう、大学で建設工学を学びたいと考えています。

“亡くなった母や祖母、そして家族のために少しでも故郷の復興に尽力することこそが、生き残った私の使命”

生き残った私にはやるべきことが多くありますが、人々の心から東日本大震災という出来事が風化していかないようにすることこそ大切であると思います。今日本では、南海トラフ、都市直下型などの巨大地震の想定が出ています。そのような状況の中で今回の震災を教訓にし、私たちが体験したことを発信していくことで、災害を防ぐことはできなくとも、迅速に避難し、地震に対する意識を高く保つ続け、被害を最小限に抑えることはできると思います。そうなっていけば、本当の意味での教訓が生きたということになっていくんだと思います。

私のように悲しい思いをする子がこれ以上生まれないよう、心の中で永遠に生き続ける母と共に強く生きていきたいと思います。

プログラム・ハイライト　ー芽生えた使命：東北から、世界のために—

ビヨンドトゥモローのプログラムに参加した学生たちの多くが、新たな視野を持ち、
グローバル・アジェンダ（地球規模課題）に立ち向かうべく、歩き始めています。

世界の医療問題の解決に貢献できる国際的な看護師を目指す

山内留衣（やまうち・るい）
仙台白百合学園高等学校卒業、フィジー国立大学に進学

震災後、福島県の自宅から仙台に避難し、高校生活を送る。将来は、小児甲状腺がんや白血病など原発事故によって引き起こされる病気のリスクから、福島に住む子供達の健康を守ることのできる看護婦になりたいと考えている。また、世界中で苦しむ人々を救うために、グローバルに活躍できる看護師になりたいと、国際的な経験と英語の習得のためにフィジーの大学に進学。福島県で、夢や目標を持っている子供達が健康でいられる未来を作る手助けをできる人間になることが夢。

東北の声を世界に伝えたい

佐藤滉（さとう・こう）
岩手県立盛岡第一高等学校を卒業、高崎経済大学地域政策学部に進学

震災を経て、被災した人々の声が未曽有の大災害の生き証人の言葉として多くの人に伝わることが、震災を風化させないための鍵であると考え、被災者の声を広く発信する伝道師としての役割を担いたいと考えている。将来は、東北の観光復興に携わることで、地域活性化や産業促進に貢献したいと考えている。そのために広い視野を持ちたいと、大学では留学し、グローバルに通用する信念と発言力をもった人材になることが夢。

途上国支援を学ぶために、アメリカへ進学

佐々木瞳（ささき・ひとみ）
宮城県気仙沼高等学校卒業、米国Foothill Collegeへ進学

気仙沼で被災し、家を失う。同じ人間でありながら、生まれた場所によって人生が大きく変わってしまうという地球上の不公平に衝撃を受けた中学時代の経験から、途上国の支援など、世界のために働くことが夢。夢の実現のために、語学力とグローバルな視野を得るべく米国での進学を決意。国際関係論を学び、人身売買や貧困、飢餓といった地球規模課題の解決に貢献したいと考えている。

精神的鎖国を脱却し、グローバルな視野を培うために海外へ

菊地将大（きくち・まさひろ）
岩手県立高田高等学校を卒業、筑波大学社会・国際学群に進学

日本の外の世界に関心がないまま、精神的鎖国状態で過ごしてきたが、震災を経験し、将来、政治という舞台で東北復興に携わりたいと考えるようになり、世界のベストプラクティスを学び、グローバルな視野を培うことが重要と考えるようになった。震災後は、第14代高校生平和大使としてスイスの国連欧州本部を訪問。また、2012年の夏にはTOMODACHIサマー2012 ビヨンドトゥモロー 米国プログラムに参加が決定、ニューオーリンズ・ニューヨーク・ボストン・ワシントンDCを訪問予定である。

グローバルな視野を培い、医療看護の分野で活躍したい

福田順美（ふくだ・なおみ）
岩手県立高田高等学校を卒業、宮城大学看護学部に進学

陸前高田で被災し、家を失くす。将来は、生まれ故郷である陸前高田の街に戻り、人々の笑顔を守ることのできる保健師になることが夢。震災後、進学を諦めかけたこともあったが、もっと日本を、世界を知りたいと進学を決意。国際的な経験を積んだ上で、将来は、保健師として陸前高田の街に貢献できるような人間になりたいと、大学生活を通して新しいチャレンジに取り組んでいきたいと考えている。

農業というアプローチで世界の貧困に取り組むために、ロンドンでの大学院進学を目指す

上澤知洋（かみさわ・ともひろ）
岩手県立盛岡第一高等学校を卒業、東北大学農学部に進学

震災を経験し、支援される側に立ったことで、「弱者に対する単なる同情」ではなく、「現場の状況知った上での正しい現地の理解」の上に立った支援策の必要性を感じ、途上国開発に関心を持つ。「農業」をキーワードに日本国内のみならず、世界における貧困問題を解決できるような支援のあり方を模索していきたいと、農学部へ進学を決意。大学卒業後にロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）の大学院に進学して開発学を学び、将来は途上国を効果的に支援する政策立案に携わりたいと考えている。

メディア掲載実績

新聞・雑誌

2012.05.01	岩手日報
2012.03.21	THE BROWN DAILY HERALD
2012.03.01	河北新報
2012.02.26	三陸新報
2012.02.25	読売新聞
2011.11.17	読売新聞
2011.11.10	JAPAN TIMES“ Tohoku teens share views of survival"
2011.10.20	朝日新聞
2011.10.13	福島民友
2011.10.12	いわき民報
2011.10.12	読売新聞
2011.10.12	三陸新報
2011.10.10	岩手日報
2011.10.10	河北新報
2011.10.09	東海新報
2011.10.07	河北新報
2011.09.22	JAPAN TIMES
2011.09.15	読売新聞
2011.09.14	JAPAN TIMES
2011.09.13	朝日新聞
2011.09.13	日本経済新聞
2011.09.11	岩手日報WEB NEWS、岩手日報新聞
2011.09.11	読売新聞に掲載
2011.09.03	朝日新聞地方版オンライン
2011.09.02	三陸新報
2011.07.20	読売新聞

テレビ

2012.03.19	NHK総合「首都圏ネットワーク」
2012.01.05	NHK総合「おはよう日本」
2011.11.11	TBS「NEWS23クロス」

ウェブサイト

2011.12.26	日経ウーマンオンライン
2011.10.03	毎日．jp（毎日新聞）
2011.10.14	LOVE＆HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト～
2011.07.01	オルタナ
2011.07.01	CNETJAPAN

ラジオ

2012.05.25	NHKラジオ第1放送「すっぴん！」
2011.11	福島ラジオ
2011. 07.29	TBC東北放送ラジオ「ランチボックスーL」

THE BROWN DAILY HERALD

Orphaned by tsunami, survivors tell stories of loss

震災体験伝え共有
日米の高校生が意見交換

Boston Boys and Girls Club / BEYOND Tomorrow Kesennuma Program – U.S. students visit disaster areas

被災体験聞く
東陵高で交流

Tohoku teens share views of survival
Young network, share ideas at camp focused on leadership

岩手日報 2012年（平成24年）6月18日（月曜日）

新たな夢へ米留学

家族失った小川さん（釜石出身）

トモダチ構想で実現
出会い支えに生きる

2011年(平成23年)10月20日 木曜日 朝日新聞

痛みを力に 未来へ

夏季ダボス会議で被災学生ら意見交換

伝わった思い もらったヒント

2012年(平成24年)2月25日(土曜日) 読売新聞

Boston Boys and Girls Club / BEYOND Tomorrow Kesennuma Program
– U.S. students visit disaster areas

東日本大震災 明日への掲示板

米高校生、被災地と交流

2011年(平成23年)9月2日 金曜日 三陸新報

絆の大切さ世界に発信

東陵高3年 加藤英介君 夏季ダボス会議 ジュニアプログラム参加

加藤英介君

日本経済新聞(夕刊) 2011年(平成23年)9月13日(火曜日)

津波、助けられない。母に何度も「大好きだよ」

私の思い 世界中に

女子高生ら「生の声」

中国の国際会議参加へ

MAN Online

「世界」を知ってほしい

の学生と「世界」をつなぐ架け橋として

1月17日(水曜日) 読売新聞

「東北の未来」国に提言

岩手の高校生

岩手県の高校生2人が16日、内閣府を訪れ、「東北の未来の姿」をテーマにした提言集を古川国家戦略相に手渡した。

THE JAPAN TIMES THURSDAY, SEPTEMBER 22, 2011

Tohoku students share tales of disasters on global stage

ダボス会議に 2人参加へ 被災伝える

河北新報 平成23年(2011年)10月7日(金曜日)

涙の先に新たな自分

体験生かし世の力に

目標へ向かって

9月11日(日曜日) 読売新聞

被災体験 世界に発信

高校生らダボス会議へ

ビヨンドトゥモローとの出会い、そして

震災を経験した一人一人が、数々の出会いを通して多くを感じ、自分の未来につなげようとしています。ビヨンドトゥモローは、一人一人の人間的成長の機会を提供するプラットフォームでありたいと思います。

「リーダーズサミット受かったあぁ！＊来週東京でプレゼンだ！」

「参加の応募は222件、合格は70人。その中に自分が含まれている事に対し、驚きを隠せないというのが正直な感想。参加させていただくからには、背筋を伸ばして最後まで取り組もうと思います」

「ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミットに参加して、強く希望を持ち生きて行きたいと今では少しずつですが思えるようになってきました」

「頑張れ東北とか頑張ろう東北とかって言われるけど、実際に私達が頑張れる場ってのはこれまでなかった」

「昨日までの３日間を思い返してみる。本当に凄かったの一言。もう一回やりたい。想像以上で一生もんになった」

「ビヨンドトゥモローのムービーがYouTubeに載せられていてすごい感動。これがある限りサミットで出会えた人達とのつながりを忘れる事はない」

「レベル高い会話や空間だったけど復興支援や街づくりを改めて考え直す時間だった」

「BEYOND tomorrowに参加して凄く沢山の人に知り合い、そして沢山の事を学びました(*^^*)この経験を今後に生かしていきたいな☆」

「死に方ばかり考えていた私に前に進む力を与えてくれたのは、このサミットで出会った仲間たち」

「ビヨンドの主催するのって疲れるんだが辛くないってゆー。それでいて勉強になることばっか。自分に足りないものとかなにを伸ばせば良いかとか、学校より勉強になる！」

◂本人撮影

今年一番。

今年一番悲しかったこと。お父さんが急にいなくなったこと。

今年一番楽しかったこと。Beyond Tomorrowの集い。

今年一番悩んだこと。『強い』とは一体なんなのか。

3月11日。

まだ寒さの続く中、全てを失った。

地元も…おとんも。

目の前で流されていく家。

目の前に現われた黒い水。

町中を包んだ黒い水。

町中から助けてと呼ぶ声。

何も出来ない自分。

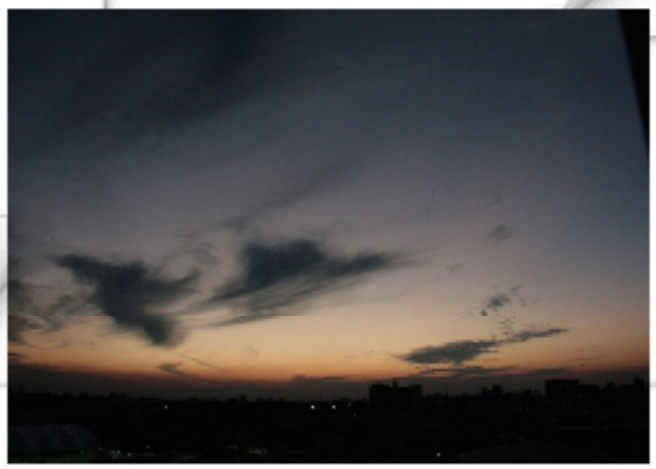
無力な自分。

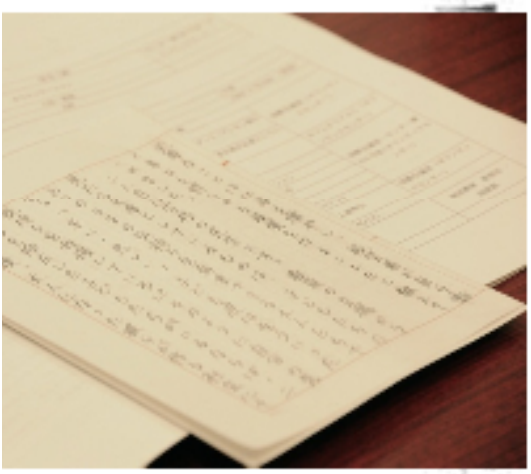
唯一出来たことい。

ケータイで写真を撮ることだった。

でも一枚しか撮る勇気が出なかった。

なんでかわからないけどそこが限界だった。





辛い別れを経験し過去にすがりたくなる気持ちを経て、新たな出会いがありました。私たちに何ができるか。私たちだからできることは何か。

失敗と挫折を繰り返し生きていく私たちにとってこれまで出会ってきた人たちは一生を通して繋がりあえるはずです。同年代の強い志を持った仲間。私たちにアドバイスややる気をくれるメンターのみなさん。

それを繋げてくれたBeyond Tomorrowのみなさん。

過去は今を変えられないけど、今は未来を変えられる。

周りにそう教えてもらいました。

悲しみを強さに変えて今を精一杯生きていこうと思いました。

遠藤見倫　石巻専修大学経営学部1年
（宮城県石巻北高等学校卒業）

組織体制

【アドバイザー】

竹中平蔵　　慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所所長　総合政策学部教授

【役員】

■ 理事

浅尾慶一郎　　衆議院議員
岡島悦子　　株式会社プロノバ　代表取締役社長CEO
小林正忠　　楽天株式会社　取締役常務執行役員
近藤正晃ジェームス*　Twitter日本代表、一橋大学客員教授
佐藤輝英　　株式会社ネットプライスドットコム　代表取締役社長　兼　グループCEO
高島宏平*　　オイシックス株式会社　代表取締役社長
坪内南　　一般財団法人教育支援グローバル基金　事務局長
藤沢久美*　　シンクタンク・ソフィアバンク副代表、社会起業家フォーラム副代表
船橋力*　　株式会社ウィル・シード　代表取締役社長
堀主知ロバート　株式会社サイバード 代表取締役社長兼グループCEO
牧原秀樹　　前衆議院議員　弁護士・ニューヨーク州弁護士、
　　政策研究大学院大学客員研究員
松崎みさ　　株式会社アシモード　代表取締役
松田公太　　参議院議員
(*共同代表理事)

■ 監事

江崎滋恒　　アンダーソン・毛利・友常法律事務所　弁護士

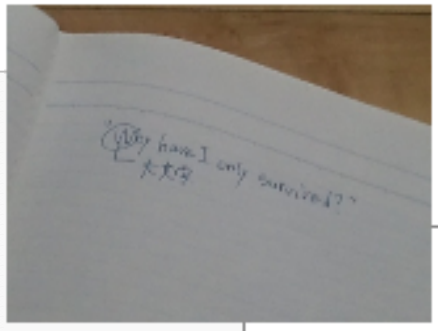
■ 評議員

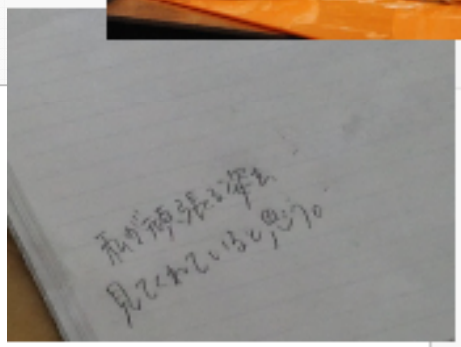
茅野みつる　　カリフォルニア州弁護士
土井香苗　　弁護士、ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表
宮城治男　　NPO法人ETIC. 代表理事

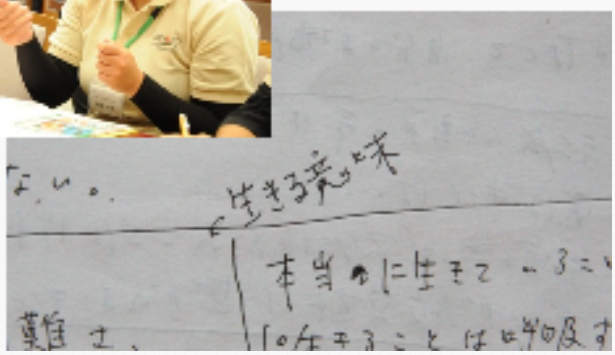
【創設者会議】

上記役員に加え、下記のメンバーが創設者会議メンバーとして、ビヨンドトゥモローを応援しています。

岩瀬大輔　　ライフネット生命保険　代表取締役副社長
大塚拓　　前衆議院議員、政策研究大学院大学客員研究員
齋藤ウィリアム浩幸　Intecur, K.K. 創業者兼最高経営責任者
堂前宣夫　　株式会社ファーストリテイリング　上席執行役員
西山浩平　　エレファントデザイン株式会社　代表取締役会長
古川元久　　衆議院議員
　　国家戦略担当大臣、内閣府特命担当大臣(経済財政政策、科学技術政策)、
　　宇宙開発担当大臣
松古樹美　　野村ホールディングス　コーポレート・シティズンシップ推進室長
　　マネージングディレクター、ニューヨーク州弁護士
山崎直子　　宇宙飛行士







ご支援・ご協力

（50音順・敬称略）

ビヨンドトゥモローの事業は、多くの方々からのご支援によって支えられています。
皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

「資金のご寄附」
多くの方々から、運営資金のご寄附をいただきました。

ストラテジック・パートナー
（ビヨンドトゥモローの活動に1000万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体）

- ジャパン・ソサエティー
- 武田薬品工業株式会社
- 米日カウンシル
- 三菱重工業株式会社
- ロート製薬株式会社

プロジェクト・パートナー
（ビヨンドトゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体）

- 株式会社ポイント
- 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
- 住友化学株式会社
- 日本GE株式会社　GEキャピタル
- ボストン東北緊急支援ファンド
- ap bank Fund for Japan

ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・パトロン
（ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・プログラムに奨学金枠をご寄付いただいた個人の方々）

- 大塚 太郎様
- 小林 正忠様
- 本庄 竜介様
- ロバート・アラン・フェルドマン様

その他のご寄附

- 株式会社ウェルネス・アリーナ
- 野村證券 人事部 ダイバーシティ＆インクルージョン 社員ネットワーク
- KIBOW

「商品・サービスのご寄附」
下記企業の皆様から、運賃・会場・宿泊・印刷製本などのご協力をいただきました。

プロボノ・パートナー
（ビヨンドトゥモローの活動に商品・サービスの形でご寄付・ご協力をいただいた企業・団体）

- 有限責任 あずさ監査法人
- 株式会社ガリバーインターナショナル
- グランド ハイアット 東京
- 全日本空輸株式会社
- キンコーズ・ジャパン株式会社
- 六本木ヒルズクラブ

「人材によるご協力」
下記企業から、社員の方々による数日間の短期ボランティアから、年単位の長期派遣の形でプロジェクト運営に参画いただきました。

- ロート製薬株式会社
- 株式会社ポイント

「奨学金枠の提供」
高校留学プログラムの実現にあたり、海外のトップクラスのボーディングスクールに奨学金枠を設置いただきました。

スカラーシップ・パートナー
（奨学生枠の提供をいただいた教育機関・教育団体）

- Leelanau　School（米国・ミシガン州）
- Leysin American School（スイス・ヴォー州）
- St Michael‘s College（英国・ウスターシャー州）
- St. George's School（スイス・ヴォー州）

BEYOND Tomorrowとは

概要
一般財団法人　教育支援グローバル基金は、政治・行政・企業・NGO・メディアなど多方面にて活躍するリーダーたちにより設立された財団法人です。「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施しています。2011年9月には、「夏季ダボス会議ジュニアリーダーズプログラム」、10月には「東北未来リーダーズサミット」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。また、大学進学者を対象として奨学金及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・プログラム」や、高校生を対象として海外のボーディングスクールへの留学機会を提供する「高校留学プログラム」を運営しています。

住所
〒150-0041　東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階　ETIC. 内

メール
info@beyond-tomorrow.org

URL
http://www.beyond-tomorrow.org/

設立年月日
2011年6月1日

FAX
03-6745-9100

デザイン・レイアウト協力：中河綾子

一般財団法人　教育支援グローバル基金
http://www.beyond-tomorrow.org/

〒150-0041
東京都渋谷区神南1-5-7
APPLE OHMIビル4階　ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org

©一般財団法人　教育支援グローバル基金